

D

平成13年度 第2次試験問題

4. 中小企業の診断及び助言に関する 実務の事例Ⅳ

15:40～17:00

注意事項

1. 開始の合図があるまで、問題用紙・解答用紙に手を触れてはいけません。
2. 開始の合図があったら、まず、解答用紙に、受験番号を記入すること。
3. 解答は、問題ごとに指定された解答欄にはっきりと記入すること。
4. 解答用紙は、必ず提出すること。持ち帰ることはできません。
5. 終了の合図と同時に筆記用具を置くこと。
6. 試験開始後30分間及び試験終了前5分間は退席できません。

D

D社はメーカー向けに材料を輸入している従業員60名の商社(社歴30年)であり、5種類(メガネ用ガラス、光学機械レンズ用ガラス、半導体用研磨剤、メガネ用研磨剤、セラミック用研磨剤)の商品を扱っている。

平成11年度および12年度の貸借対照表と損益計算書は表1・表2に示すとおりであるが、過去5年間の売上高の伸びは平均して約20%とこれまでにない急激で高い成長率を示しており、取引先も大幅に増えつつある。なお、営業外収益、営業外費用および特別利益はすべて現金による取引で発生したものであり、また、利益はすべて内部留保されている。さらに、商品別の採算性検討資料は表3に示すとおりであるが、販売費・一般管理費のうち共通固定費は売上高に基づいて按分している。

これらの会計書類は経理用パッケージソフトを用いてコンピュータで処理、作成している。また、在庫管理用パッケージソフトも別途利用している。しかし、これまでは取引先が固定的でそれほど多くなかったので、販売先、仕入先の管理についてはコンピュータでは行っていない。

売上高の伸びだけを見ると、順調な推移と判断したくなるが、経営者は今のうちに、収益力が高くまた財務的にも健全な経営体質に改善したいと考え、中小企業診断士に診断・助言を依頼してきた。

表1 貸借対照表

(単位：百万円)

	平成 11年度	平成 12年度	増減		平成 11年度	平成 12年度	増減
資産の部				負債の部			
流動資産	2,544	4,140	1,596	流動負債	2,295	3,748	1,453
現金等	280	260	-20	支払手形・買掛金	740	788	48
受取手形・売掛金	1,654	3,150	1,496	短期借入金	1,255	2,660	1,405
商品	600	720	120	その他流動負債	300	300	0
その他流動資産	10	10	0	固定負債	454	537	83
固定資産	790	830	40	長期借入金	424	507	83
土地・建物	100	95	-5	その他固定負債	30	30	0
投資有価証券	660	672	12	負債合計	2,749	4,285	1,536
その他固定資産	30	63	33	資本の部			
				資本金	20	20	0
				利益準備金	10	10	0
				別途積立金	402	402	0
				当期末処分利益	153	253	100
				資本合計	585	685	100
資産合計	3,334	4,970	1,636	負債・資本合計	3,334	4,970	1,636

表2 損益計算書

(単位：百万円)

	平成11年度	平成12年度	増減
売上高	6,200	7,440	1,240
売上原価	4,950	6,089	1,139
売上総利益	1,250	1,351	101
販売費・一般管理費 (うち、減価償却費)	910 (5)	1,010 (5)	100 (0)
営業利益	340	341	1
営業外収益	24	49	25
営業外費用	166	216	50
経常利益	198	174	-24
特別利益	2	26	24
特別損失	0	0	0
税引前当期利益	200	200	0
法人税等	100	100	0
当期利益	100	100	0

表3 商品別の採算性検討資料(平成12年度) (単位：百万円)

	全体	メガネ用 ガラス	光学機械 レンズ用 ガラス	半導体用 研磨剤	メガネ用 研磨剤	セラミック 用研磨 剤
売上高	7,440	3,440	990	220	1,250	1,540
売上原価	6,089	2,768	818	200	1,005	1,298
販売費・一般管理費	1,010	444	134	30	175	227
変動費	380	155	42	12	75	96
個別固定費	115	51	23	3	14	24
共通固定費	515	238	69	15	86	107

(注) 販売費・一般管理費のうち共通固定費は、売上高に基づいて按分している。

第1問(配点40点)

D社に関する経営分析について、以下の設問に答えよ。

(設問1)

両年度の貸借対照表および損益計算書を用い、利益率、回転率および安全性に関するそれぞれの経営比率について、このケースで適切な分析結果を導くために有用と考えられるものをそれぞれ2つずつ、名称と算出式を示した上で、2か年度分の経営比率の数値を算出し、解答用紙の解答欄に記入せよ。

なお、利用可能な2期分の財務諸表のみを用いて期間比較を行うために、各経営比率の算出にあたっては、当該年度の貸借対照表および損益計算書の金額のみを用いるものとする。

	(a) 経営比率の名称	(b) 算 出 式	(c) 平成11年度 数値	(d) 平成12年度 数値
1 利益率	①		%	%
	②		%	%
2 回転率	①		回	回
	②		回	回
3 安全性	①		%	%
	②		%	%

注1) (b)算出式欄の記入例

$$\text{従業員1人当たり売上高} \rightarrow \frac{\text{売上高}}{\text{従業員数}}$$

注2) (c)・(d)欄の数値の四捨五入

- (1) 利益率、安全性は、小数点第2位を四捨五入すること。(記入例：12.3%)
- (2) 回転率は、小数点第3位を四捨五入すること。(記入例：1.23回)

(設問2)

(設問1)で算出した経営比率に基づいて、D社の経営状況の総合的な分析結果を100字以内で説明せよ。

第2問(配点30点)

D社のキャッシュフローについて、以下の設問に答えよ。

(設問1)

兩年度の貸借対照表および損益計算書から平成12年度の営業活動キャッシュフロー、投資活動キャッシュフローおよび財務活動キャッシュフローを計算し、解答用紙の解答欄に記入せよ。

なお、キャッシュインフローはプラス(+), キャッシュアウトフローはマイナス(-)の金額で示すこと。(単位:百万円)

A 営業活動キャッシュフロー

(a) 項目	(b) 金額
税引前当期利益	+ 200
小計	
合計	

B 投資活動キャッシュフロー

(a) 項目	(b) 金額
合計	

C 財務活動キャッシュフロー

(a) 項目	(b) 金額
合計	

(設問2)

(設問1)の計算結果に基づいて、D社のキャッシュフローの状況を100字以内で説明せよ。

第3問(配点20点)

D社で取り扱っている5種類の商品の採算性について、以下の設問に答えよ。

(設問1)

表3の資料から商品の採算性を検討するとしたら、どのように分析すべきか、60字以内で(a)欄に説明せよ。また、その分析結果について40字以内で(b)欄に説明せよ。

(設問2)

これら5種類の商品構成を戦略的に見直していくには、どのような視点やデータに基づいて検討していくべきか、100字以内で説明せよ。

第4問(配点10点)

D社では、現在利用しているコンピュータシステムを見直し、経営管理を総合的に行えるようにしたいと考えている。コンピュータシステムの開発コストの負担が大きくならないようにしながら、それを再構築するためにはどのような方法が考えられるか、40字以内で(a)欄に説明せよ。また、D社における再構築上の留意点について、60字以内で(b)欄に説明せよ。